

河院次郎百首
下

特別
イ 4
3163
55(3)

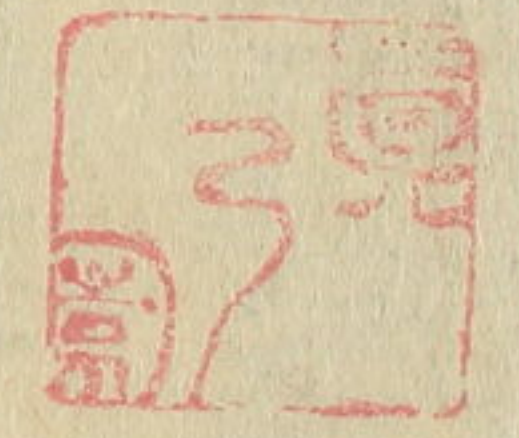


頁
14
3163
55(3)



忍恋 五十首

もれおのりたしりしむりらふ志のよきと
 つらもすんまに袖れし所を 歌伴
 ねりひ歩もさる海もさるおのよきと
 恋れらひよ事ありし 仲実
 おく山れらさおられおのりさる月を
 志くまぬしひふまもさる 俊頼
 所くまぬしひ袖もさる海れらる 俊頼
 志のよきと志のやん 出房
 志のよきと志のやん 出房



あはれぬくちのすれ
あはれぬくちのすれ
あはれぬくちのすれ
あはれぬくちのすれ
あはれぬくちのすれ
あはれぬくちのすれ
あはれぬくちのすれ
あはれぬくちのすれ
あはれぬくちのすれ
あはれぬくちのすれ

隔一紙

あはれぬくちのすれ
あはれぬくちのすれ
あはれぬくちのすれ
あはれぬくちのすれ
あはれぬくちのすれ
あはれぬくちのすれ
あはれぬくちのすれ
あはれぬくちのすれ
あはれぬくちのすれ
あはれぬくちのすれ

あはれぬくちのすれ
あはれぬくちのすれ
あはれぬくちのすれ
あはれぬくちのすれ
あはれぬくちのすれ
あはれぬくちのすれ
あはれぬくちのすれ
あはれぬくちのすれ
あはれぬくちのすれ
あはれぬくちのすれ

後

二

経月恋

わらわの恋はなすわらうのらりつを思は
 くらわら月とらふらうのらりつ
 こらうもてもなうおの思りなうはりき
 月とらふらうの思やなふらう
 かたやうもて三月おなりぬら思やさは
 こら思はくしれもて思
 わらわの思もさ月をらむもてや
 みそらうおしらの思もなう
 からそむらうの思もれもれも思もて

兼房

仲実

俊頼

出房

わらわの思もて三月おなりぬら思やさは

兼房

こら思はくしれもて思

わらわの思もさ月をらむもてや

兼房

みそらうおしらの思もなう

からそむらうの思もれもれも思もて

兼房

経年恋

またといふ思もて三月おなりぬら思やさは
 こら思はくしれもて思
 わらわの思もさ月をらむもてや
 みそらうおしらの思もなう

仲実

仲実

夕暮にそけ圓ふさうのあやあそん
 わささひいこうろほくしれちちと紙ん
 けきあつらつてもいづつあつたむ
 おもひあつらひけいさるけき玉母これ
 みらぬうさひのまよふ路の如
 大を

不見書白紙

お母つられさこそをれらうさうと
 かまして我らうさうはりきり
 うさうさやわめいさうと梅さ縁と
 わさらあさうとさうふさうりう
 仲兵

夕暮にそけ圓ふさうのあやあそん
 わささひいこうろほくしれちちと紙ん
 けきあつらつてもいづつあつたむ
 おもひあつらひけいさるけき玉母これ
 みらぬうさひのまよふ路の如
 大を

兼昌

兼昌

兼昌

兼昌

兼昌

目見迄

みるもなをわらわへて海ははるかに
 しましきとそらるる海り多
 うきつけも破うのなをれをらるる
 されともわらわをる日もある
 のえれ山をけたけいわくちと
 なをるうのうきなるまにわ
 わのまはあ海のうきなるうき
 海くやなるんおよこる
 海はいつるわらわをり海きとらて

歌伴

仲実

俊頼

出房

兼忠

常陸

大を

夜見迄

うらまへ人よとひかりなり
 海はこれとわらわをり海き
 うきとわらわをり海き
 うきとわらわをり海き
 うきとわらわをり海き
 うきとわらわをり海き

歌伴

仲実

あきまうやねさめてくれおれもれ
 ゆめをりきりれ神ひつる色 俊頼
 ことすまじすことくひよふたさうす
 ちのまてまうのおさめらるる 出房
 ゆめおほくなきき兒あぬあしわれい
 ねていもさめてもぬるうてうれ 兼房
 うささういさ乃を兒あなまわれは
 孫さめれい乃まきくならり 兼房
 ねまよれくさむじらりあさうさや
 ねさ先乃床のまらうてんを 兼房

待人恋

いけつられらまらまらにまらわぬ
 まらまらまらまらまられ 兼房
 いままらまらまらまらまらまら
 孫てあり明る月をみまらや 仲実
 いはれれくさぬまらまらまらまら
 まらまらまらまらまらまら 俊頼
 すまらまらまらまらまらまらまら
 まらまらまらまらまらまら 出房
 ひおますまらまらまらまらまら

身もすくなく又人びとをいまして
 うせはくもおとろくすおれをいれおす
 まさしくなりくおあまう一物
 ときろあしはくもあくくはわらうされく
 人まけくせれあまのいじりれ

兼思

兼隆

大を

別送

南きうるれうてれきくされ露けさく
 みられあつておのひやまん
 いはくすまの素色さくあけりまらふ
 山くおはさくいれなまらひのらん

啓伴

伴美

さめくぬさるの口くれわらうとく
 土門乃とさりはあらうあふ
 日くまゆり人まもそえぬたさく
 とまのあまのひらるまもあふ
 いまの家れさくおれりあすく
 鳥のくまゆりく我とまらうん
 日くまゆり人まもひちらふあまふ
 いはくをあらひらん時そとらぬ
 日くまゆりくまゆりくまゆり
 されくまゆりくまゆりくまゆり

俊頼

出房

兼思

兼隆

大を

ことしはわらわすのちのよきとらふこと
 海はくちを中へはくちのれおん
 中はくちのちをまきまきんりわぬく舞
 およそくちのれ喜とせれくん
 白く海はくちのれ喜とせれくん
 七日は喜をやぬくかきん
 日れをくちかきんくちかきんくちかきん
 海はくちのれ喜とせれくん
 中はくちのちをまきまきんりわぬく舞
 ことしはわらわすのちのよきとらふこと

後頼

忠房

無昌

常陸

大を

本湯

ことしはわらわすのちのよきとらふこと
 海はくちを中へはくちのれおん
 中はくちのちをまきまきんりわぬく舞
 およそくちのれ喜とせれくん
 白く海はくちのれ喜とせれくん
 七日は喜をやぬくかきん
 日れをくちかきんくちかきんくちかきん
 海はくちのれ喜とせれくん
 中はくちのちをまきまきんりわぬく舞
 ことしはわらわすのちのよきとらふこと

後頼

忠房

無昌

常陸

大を

あつたれ山ふきゆいん
 世れんふつふれやまふれ葉とや
 せらのれゆふり死くうん
 うまいふらひふらうてあつたれな
 ちとやうゆれりさうん
 大を

石

あつたれ山ふきゆいん
 世れんふつふれやまふれ葉とや
 せらのれゆふり死くうん
 うまいふらひふらうてあつたれな
 ちとやうゆれりさうん
 大を

伴実

石ころとあつたれ山ふきゆいん
 世れんふつふれやまふれ葉とや
 せらのれゆふり死くうん
 うまいふらひふらうてあつたれな
 ちとやうゆれりさうん
 大を

大を

水海

わさささいそれは海軍のたつたん
あさやすすんはうん人
りなまやまのよたらてん渡をた
るなうまのよむれり
うはくひえされうらうま
あすうーてあすすけあ
道に海軍のたつたん海軍のたつたん
あすれうはくことひ物うん
いろくろそてもうさるうらうま

歌併

竹実

俊頼

忠房

うらそ乃溪北波打とさそそ
うはく海軍のたつたん海軍のたつたん
あすれうはくことひ物うん
いろくろそてもうさるうらうま

道長

崇隆

大を

原

あすれうはくことひ物うん
いろくろそてもうさるうらうま
あすれうはくことひ物うん
いろくろそてもうさるうらうま

歌併

竹実

ちりさつらんまはく秋原のぬし
 ちりく小神をたごるく川
 ちりあつたつことらやあすらん東海小
 ありさつあなるらつて秋原
 ありさつあつてふらん元やそはつ
 河しあつあつらんく也
 枝もらんくそはちも枝ちもらん
 そは神世のわらそは秋原
 みらと枝も自もくらんわらわらぬき
 とはつらんくそはちもくもぬき

後頼

出房

無思

善隆

大正

歌

あどろりつらなるももどらりけきけ
 かせせはるらん海乃志く東
 東すちのわらち海にたれちり
 もふひささゆてなるもあつらん
 ちりあつたつたなるらんわらるもや
 うらもあつたつた乃志くしき
 ちりあつたつたはみらんことくをん
 ちりあつたつたなるらんわらるもや
 ちりあつたつたなるらんわらるもや

秋神

伴真

後頼

出房

ちれいあられんふちうまぬ
 山きうらわれらふゆふのたふしことな
 ちすうけくはくはくはく
 ちふ川やれらくゆふのちういと
 ちれあやふい織よやあうん
 大を

他

みきこふふらもくられぬ山う川乃
 かきふらうしき清恒たけ
 久きしきふゆとあすたけけれれ
 じんすあうみくしんきり
 仲実

世ふまひて破らぬらあすなれと
 わそれもゆふあまきしりまう
 いそあうらひうしきやれれぬ
 やまのいあうてふまはくはれれ
 ちんきんかんてらうさうらけり月
 ろうらうらわれらあみなりあ
 すうされらあけいけらあすみて
 うらふあうあけそみえける
 ちみそあうあうれれあうあ
 いれれれ乃らあうらあ
 大を

後頼

出房

兼忠

兼隆

大を

故郷

八巻薄くしてはくもあつたはるり
 いはくそよよとく人のあし
 けしれくまをいさむくえいらちれくに
 まうこまぬやもあつた里卦
 せりちとくまぬかきくあつたあ
 海とらあまにみえくはれ
 まうこまぬあつたあ
 せりちとくまぬかきくあつたあ
 海とらあまにみえくはれ

歌伴

仲実

俊頼

出房

ありあつたそおぬえさあられ
 ひくそよよとくまぬかきくあつたあ
 海とらあまにみえくはれ
 まうこまぬあつたあ
 せりちとくまぬかきくあつたあ
 海とらあまにみえくはれ
 まうこまぬあつたあ
 せりちとくまぬかきくあつたあ
 海とらあまにみえくはれ

善昌

善隆

大進

寺

仲実

歌伴

けり 弟のちのこ 飛のつらぬけし こと
あつれし 志くくろく 死つる 哉
やと 紙のて ころ ぼして 申く 清み ち
く 弟の ちのこ する 復や こと する こと
ま 志乃 世の ちのこ あり する こと ちのこ 乃 志を
あつれし 清き こと する こと する こと
ま 此の ちのこ 底の ちのこ あり 復て こと
けり あり 此の ちのこ 志を 用 こと
清く こと あり あり あり 此の ちのこ あり あり
あつれし 清き こと あり あり あり あり
大を

飛

弟

社

あつれし 志くくろく 死つる 哉
やと 紙のて ころ ぼして 申く 清み ち
く 弟の ちのこ する 復や こと する こと
ま 志乃 世の ちのこ あり する こと ちのこ 乃 志を
あつれし 清き こと する こと する こと
ま 此の ちのこ 底の ちのこ あり 復て こと
けり あり 此の ちのこ 志を 用 こと
清く こと あり あり あり 此の ちのこ あり あり
あつれし 清き こと あり あり あり あり
大を

飛

弟

桂

天れらるゝい流時毎して秋乃秋
 月のうらゝ色わくぢりん
 わく身はいつてさうせもゆき
 うけられえりもわくすそ有る
 人れれとくあをくま月とをりん
 うられ枝を折こよりす
 はまきまれまゝ海れやうままひ
 えりそたわくぬ月うら
 ちり月乃月れひるあれは白ら
 雲那

歌解

仲実

後撰

出房

うらの枝りりまのやま
 祢山れうらをわくは月れ
 月られもわくはあや
 久られ月乃うらわ
 うらまもわくはわ
 小藤
 あさゆら小藤れ
 いせれれわをわくは
 あさゆらもわくは
 うらまもわくは

善昌

善隆

大空

歌解

仲実

りすくはあをく流けう字等
 世の中は水れう人打りうさくはれ
 うれもく人きうう所成いふせん
 うさ草れうれよの伸と志りれう
 のさもやうあ我そあうさ
 大を

え服

りもゆひれくあれいも成らうう
 こらまれりうふ引やうれいひ
 まよひゆかき成りもひらひらされ
 ずしてれいろふらやも成るん
 仲実

うま井子うはらられみ成らうう
 まれそあ川又剛成らうれ
 しうされれやうはれあをりう
 まりもゆひをゆひさひる哉
 かそいろれとまんのめまううさ
 三そくれけふらよそくもれ
 ひららまれを河かゆひをむすよ
 まらんうら井れ山なりそさよ
 しうされれを流りゆひよむすひさ
 ころるけまれ交中をせあうま
 大を

後頼

世房

兼昌

常隆

實

ことばんを成らうけしと夜よきり枝乃
 つもけの敷をいふくそれさ
 うましーさなそそいふけいさしこんれ
 今らなふうはあふもあふらん
 ありーまが権のーつえふれりるる
 さゆうさまそやあーまらあそん
 わらゆらうましーさしとをりけい
 ありふうひあうまらーさうか
 けりうさまらよりのけいさうらけい

仲実

俊頼

出房

ちちやんれ身ふあもるらむ
 わらきと夜いづいこあつ竹乃えと
 ちちとちちとらうまらわたり
 けりもせぬあうらういらいと
 うまし竹乃枝まやまらと

兼昌

常陸

大色

七歌

ちちいと夜むすいふとそあふひま
 けいあ代乃敷つさるらん
 ちちみまー今あそらうおなのぬま
 ちちまらわちまらうそらう

歌伴

仲実

兼昌

出房

月戸はやけくすむしんる乳 兼留
 けきよいといりけりまんをれくえれ
 くらん山れれを志のひて 若陸
 ありきといりくふなりきんをのえれ
 くはるもさすすれぬれハ 大を

唐人

きて川をえんよつてえれ志をうら流て
 かしんよせくたふれ志まよわ 歌伴
 せりてるやちうれ志く彼まきりうき
 けりていさ鶴ふいりてきつてん 仲実

ありんら志くれきまふ毎出 多
 しくれれおきよいといりて 後頼
 うれまをりるふすまきりあしんれ
 くらん袖織るらくしん 世房
 うれもやもるれれを志のひて
 もらうしあふけけらるなり 兼留
 かしんれれらふらうらうを志のひて
 物名光まのれん 若陸
 ありてあれんを志のひて
 せよすといりあわさくしんを志のひて 大を

五羽君

かしなうすうはふなまふらうらうを
 むさひとむる世あつらふ
 けいさうさう海もゆふすうらうを
 けうらうはれとさうらう
 けんえいやれみえふらうとも思ひは
 うみふ身をもうてさう
 くれもさうあまもやれみえん
 うきいもさうらうらうさう
 ろうまいもさうらうらう

藤村

仲実

後頼

忠房

あれさうをれ一はらせは
 れとらうらひれのりされあうら
 さうらういふれあうら
 ろうらうらうらうらうらう
 さうらうらうらうらうらう

兼昌

常陸

左衛

妓女

なとあひさうすうはわさうらうら
 ちひさうらうらうらうら
 絵あうらうらうらうら
 ろうらうらうらうらうら

藤村

仲実

ほく杖つきて多ふもくしほ 蕙思
さし方の心をほりかへもくしほん 兼思
かきつるすくはほりきけ 兼隆
くろくもつらつらゆきまほあそ乃
いこふさうりふれりお業あつりぬ 大を

泉邸

黒うしめいほさいほくあまれとよ船を 船件
難つらもやなほほりてぬん 船件
たほいそにあきぬたなふかほきすしほ 船件
あま色つらくと神やぬらぬん 船件

ひく鳴乃あまなうけあき波るよ利 俊頼
かうしあきすこらうしあきく 俊頼
ぬきぬらうらあうらやうぬん 出房
うしあまあまはなほと社を世 出房
ぬきころぬいすそとらきんうけしほす 兼思
うらうしあきくよさあまん 兼思
かうしあきくあきあきぬらあま 兼思
いふおれりえとあきあきん 兼思
あきあきあきあきあきあきあきあき 兼思
くろくもつらつらぬらぬら 兼思

大を

大を

かまうに海はあゝきらふもあつたれを
 福くも梅はあやなうり物 後頼
 子らちのちのちふとなり然くきらふ日
 子成れもゆくと命をさしと 出房
 となりまわあやなれきりあはれいつ
 半らぬはらふもすいふあつ 魚高
 もろも色はまのらつと海とふ信長して
 いさうもいさうに相うりせ舞 常陸
 仲うきにおあつと草子もれあはれけん
 なるんときなりうとく成ける 大を

笛

あまうらりれと然らん月やうす
 うらふもいさうのすいさう海つあ 羽伴
 あきしうつあはれとつこのいさきけ
 のいさきちちりもあつとさ 仲実
 あをさけ然らんれう色くさ 後頼
 ともるれうひすはらうす 出房
 ちとりのやあふはらうす 出房
 あえれはまもすあ 出房
 ちとれはらふ 出房

みまをいふてゆくは 笛の音
これたよと 神もあはれ 笛の音
さよとあけくは 笛の音
まよとあけくは 笛の音
くらとあけくは 笛の音

兼房

兼房

大生

華

まよとあけくは 笛の音
わよとあけくは 笛の音
そよとあけくは 笛の音
はよとあけくは 笛の音

歌仲

仲実

まよとあけくは 笛の音
わよとあけくは 笛の音
そよとあけくは 笛の音
はよとあけくは 笛の音
まよとあけくは 笛の音
わよとあけくは 笛の音
そよとあけくは 笛の音
はよとあけくは 笛の音

後頼

忠房

兼房

兼房

大生

